巻頭特集

子どものメンタルヘルスを取り巻く現状と今後の可能性

1．子どもの心理的発達と各年代の課題と危機　（齊藤　万比古）16

図１　乳幼児の分離―個体化過程
表１　乳幼児期の発達段階とその発達課題
図２　医療施設外来初診児の主診断（平成２５年）

2．支援が必要な子どもへのケア～福祉における支援・施策を中心に～　（和田　一郎）20

図１　マズローの欲求５段階説
図２　児童虐待防止対策強化プロジェクトの全体像
表１　産前・産後の虐待（傾向）の危険因子（平成２４～２６年）
図３　地域における切れ目ない妊娠・出産支援の強化の概要
図４　子ども数・母の就業形態別，子育て満足度（平成２５年）
図５　心のケアに関する行政・福祉施設・地域等の関係機関・団体リスト

3．家庭を支える諸機関　（小平　雅基）24

図１　子どもの心の診療医の三類型
図２　子どもの心の診療拠点病院ネットワークイメージ
図３　スクールソーシャルワーカー活用事業の概要
図４　心の健康問題に対応する教職員の役割

子どもの心理的発達と各年代の課題と危機

はじめに

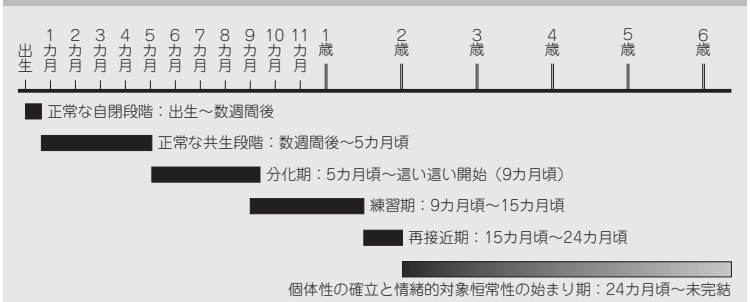
子どものあらゆる情緒と行動の問題や精神医学的疾患を理解し，その解決や支援に関わろうとする親を含めた全ての大人は，子どもの心理的発達の経過と，その各年代に取り組むべき発達課題についてある程度理解していることが望ましい。これは定型発達における発達の路線を理解することに始まり，生来的な発達障害を持つ子どもや人生早期に始まる児童虐待の被害者である被虐待児などが背負わされる発達上の偏りや障害について理解するに至るまでの広範な分野にあたり，その全てを詳細に知ることは難しいものの，バランスの良い展望が可能な程度に理解していることは，子どもと関わる立場の大人には必須である。ここでは出生から思春期・青年期までの心理的発達の定型的経路と各年代別の発達課題について概観するとともに，各年代に遭遇しやすい心理的危機について述べる。

1　子どもの心理的発達と発達課題

1-1．乳幼児期（0 ～ 5歳）

乳幼児期は，新生児期の養育者からほぼ全面的に世話される存在から始まり，養育者に依存しながら，徐々に離れ自立的となっていき，ついには1日の一定時間を養育者から離れて存在できるまでに至る経過である。マーラー（1975）は乳幼児の直接観察を通じて，この経過を子どもの養育者からの分離過程であり，母子関係の質的変化の進行過程であること，すなわち子どもの心理的発達とはこれらの過程に支えられて進行する子どもの自己形成の過程に他ならないことを明らかにした。子どもは出生によって生物的存在として誕生し，マーラーが分離―個体化過程（**図1**）と呼んだ発達路線を歩んで，母親から分離した固有の自己を持つ個人として成立する。現在では異論もあるが，マーラーはこの過程を通じて人間が第1段階としての心理学的完成体に到達する，すなわち心理的な誕生を果たすと考えた。ここでは乳幼児期を次ページ**表1**のように，マーラーの考えも組み込んだ4段階に分け，各段階の心理的発達の特徴と発達課題について整理したい。

図1．乳幼児の分離―個体化過程



㊟　Mahler, M.S., Pine, F., & Bergman, A .(1975). *The Psychological Birth of the Human Infant*. Basic Books, New York.より改変。
資料：「乳幼児の心理的誕生―母子共生と個体化　M.S.マーラー他著／高橋雅士・織田正美・浜畑紀（訳）」1981年 黎明書房刊を基に筆者が作成

1-1-①．第1段階（出生～ 9カ月前後）

第1段階は出生の前後から始まり，マーラーが正常な自閉段階と正常な共生段階と呼んだ生後4カ月あるいは5カ月までの時期と，分離―個体化過程の第1下位段階である分化期を併せた時期を指している。現在では自閉段階と共生段階については否定的な意見が多く，すでに出生直後から母子の相互交流・相互反応は生じているという意味で，共生的な結びつきの強い分離―個体化準備段階ないしは助走段階と理解する方が妥当と思われる。この発達段階は母子相互の没頭と愛着（アタッチメント）の優勢な関係性にその最大の特徴がある。この相互の没頭と愛着は，この年代の発達課題である子どもが自己肯定感あるいは自己価値の優勢な自己感を形成し，同時に他者を信頼する能力を獲得するという，エリクソンが「基本的信頼」と呼んだ基盤的能力の形成を促す。言うまでもなく，この母子の没頭と愛着という結びつきは，出生から時が経過していくにつれ，最早期のほとんど一体と感じる母子の共生的結びつきに徐々に齟齬が生じ始め，それが分離―個体化過程の本格的開始（マーラーは「孵化（ふか）」と呼んだ）に向かう推進力となる。この段階の後半は，乳児が母親を目で追いかけ，母親と目が合うと他の誰にも見せない明確な笑顔を示すという「選択的微笑」と呼ばれる現象や，母親に抱っこされながら体をそらして母親の顔を見つめ，周囲の人物に目を向けてはまた母親の顔を見つめるという行動を示すようになる。マーラーはこのような行動を分離―個体化過程の開始段階（分化期）ととらえた。